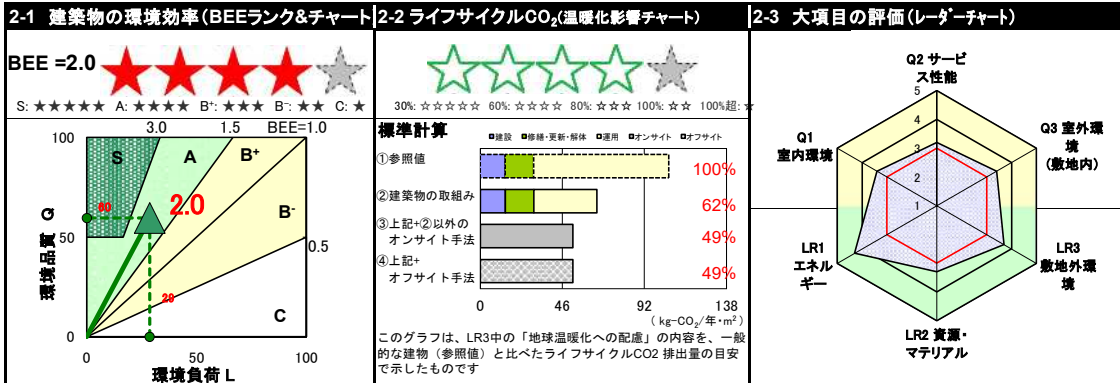
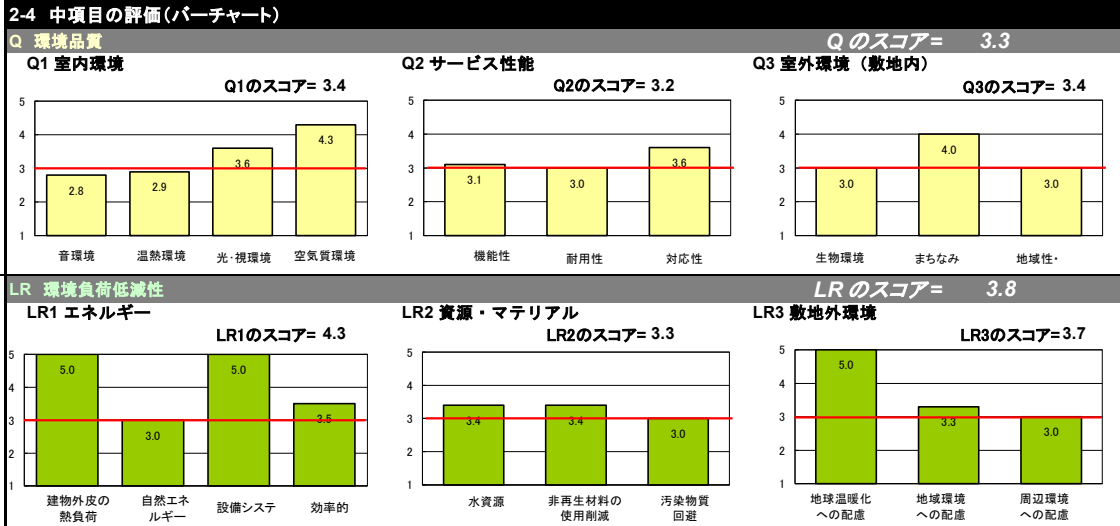


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	小牧田神新事務厚生棟(南棟)	階数	地上4階
建設地	愛知県小牧市東一丁目1番他11筆	構造	S造
用途地域	工業地域	平均居住人員	250 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2027年5月 予定	評価の実施日	2026年2月27日
敷地面積	3,377 m ²	作成者	株式会社山下設計 伊藤潤
建築面積	998 m ²	確認日	2026年3月6日
延床面積	3,824 m ²	確認者	株式会社山下設計 小林史



3 重点項目	
①地球温暖化への配慮	③敷地内の緑化
5.0	3.0
②資源の有効活用	④地域材の活用
3.3	1.0

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

- ①地球温暖化への配慮
- LR-3 1 地球温暖化への配慮
- ②資源の有効活用
- Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
- LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
- ③敷地内の緑化
- Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$



CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
小牧田神新事務厚生棟(南棟)

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		住居・宿泊部分		全体	
配慮項目		独自基準	重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質													3.3
Q1 室内環境								0.40			-		3.4
1 音環境						0.1	2.8	0.15			-		2.8
1.1 室内騒音レベル						3.0	3.0	0.40		3.0	-		
1.2 遮音						0.4	2.6	0.40			-		
1 開口部遮音性能						-	3.0	0.60			-		
2 界壁遮音性能						-	2.0	0.40			-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						-	-	-			-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						-	-	-			-		
1.3 吸音						-	3.0	0.20			-		
2 温熱環境						0.3	2.9	0.35			-		2.9
2.1 室温制御						0.5	2.8	0.50			-		
1 室温						3.0	2.0	0.38		3.0	-		
2 外皮性能					窓システムSC:0.32、U=4.07(W/m2K) 外壁:U=0.36(W/m2K)	3.0	4.0	0.25			-		
3 ゾーン別制御性						3.0	3.0	0.38			-		
2.2 湿度制御						3.0	3.0	0.20			-		
2.3 空調方式						3.0	3.0	0.30			-		
3 光・視環境						0.2	3.6	0.25			-		3.6
3.1 昼光利用						0.3	3.0	0.30			-		
1 昼光率						3.0	3.0	0.60			-		
2 方位別開口						-	-	-			-		
3 昼光利用設備						3.0	3.0	0.40			-		
3.2 グレア対策						0.3	3.0	0.30			-		
1 昼光制御						5.0	3.0	1.00			-		
3.3 照度					事務室の全般照明750lx	3.0	4.0	0.15			-		
3.4 照明制御					無線調光制御による、1作業単位での制御・明るさセンサによる自動調光制御	3.0	5.0	0.25		3.0	-		
4 空気質環境						0.2	4.3	0.25			-		4.3
4.1 発生源対策						0.5	5.0	0.50			-		
1 化学汚染物質					JAS、JIS規格品☆☆☆☆	3.0	5.0	1.00			-		
4.2 換気						0.3	3.3	0.30			-		
1 換気量					30m3/h(基準法の1.4倍以上の換気量)を確保	3.0	5.0	0.33			-		
2 自然換気性能					自然換気有効開口部を居室床面積の約1/18確保	3.0	4.0	0.33			-		
3 取り入れ外気への配慮						3.0	1.0	0.33			-		
4.3 運用管理						0.2	4.0	0.20			-		
1 CO ₂ の監視						3.0	3.0	0.50			-		
2 喫煙の制御					ビル全体の禁煙	3.0	5.0	0.50			-		
Q2 サービス性能						-	-	0.30			-		3.2
1 機能性						0.4	3.1	0.40			-		3.1
1.1 機能性・使いやすさ						0.4	2.3	0.40			-		
1 広さ・収納性						3.0	1.0	0.33			-		
2 高度情報通信設備対応						3.0	3.0	0.33			-		
3 バリアフリー計画			独自			3.0	3.0	0.33			-		
1.2 心理性・快適性						0.3	4.0	0.30			-		
1 広さ感・景観 (天井高)						3.0	3.0	0.33			-		
2 リフレッシュスペース					テラスやリフレッシュスペースを執務室面積の9.5%分 確保	3.0	5.0	0.33			-		
3 内装計画					木製ルーバーによる温かみのある空間、パースによる事前検証	3.0	4.0	0.33			-		
1.3 維持管理						0.3	3.5	0.30			-		
1 維持管理に配慮した設計					清掃しやすいビニル床シートの採用、鉄骨部には溶融亜鉛メッキの採用	3.0	4.0	0.50			-		
2 維持管理用機能の確保						-	3.0	0.50			-		
2 耐用性・信頼性						0.3	3.0	0.31			-		3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振						0.4	3.0	0.48			-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						3.0	3.0	0.80			-		
2 免震・制震・制振性能						3.0	3.0	0.20			-		
2.2 部品・部材の耐用年数						0.3	3.2	0.33			-		
1 躯体材料の耐用年数						-	3.0	0.23			-		
2 外壁仕上材の補修必要間隔						-	2.0	0.23			-		
3 主要内装仕上材の更新必要間隔						-	3.0	0.09			-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						-	5.0	0.08			-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔						-	5.0	0.15			-		
6 主要設備機器の更新必要間隔						-	3.0	0.23			-		
2.4 信頼性						0.1	3.0	0.19			-		
1 空調・換気設備						3.0	3.0	0.20			-		
2 給排水・衛生設備						3.0	3.0	0.20			-		
3 電気設備						3.0	3.0	0.20			-		
4 機械・配管支持方法						3.0	3.0	0.20			-		
5 通信・情報設備						3.0	3.0	0.20			-		

3 対応性・更新性				0.2	3.6	0.29	-	-	-	3.6	
3.1 空間のゆとり			②		0.3	4.6	0.31	-	-	-	
1 階高のゆとり					-	5.0	0.60	-	-	-	
2 空間の形状・自由さ					3.0	4.0	0.40	-	-	-	
3.2 荷重のゆとり					3.0	3.0	0.31	-	-	-	
3.3 設備の更新性					0.3	3.4	0.38	-	-	-	
1 空調配管の更新性					-	3.0	0.17	-	-	-	
2 給排水管の更新性					3.0	3.0	0.17	-	-	-	
3 電気配線の更新性					3.0	5.0	0.11	-	-	-	
4 通信配線の更新性					3.0	5.0	0.11	-	-	-	
5 設備機器の更新性					3.0	3.0	0.22	-	-	-	
6 バックアップスペースの確保				3.0	3.0	0.22	-	-	-		
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30	-	-	-	3.4	
1 生物環境の保全と創出			独自③	-	3.0	0.30	-	-	-	3.0	
2 まちなみ・景観への配慮			独自④	-	4.0	0.40	-	-	-	4.0	
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	3.0	0.30	-	-	-	3.0	
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④	-	3.0	0.50	-	-	-		
3.2 敷地内温熱環境の向上				-	3.0	0.50	-	-	-		
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	-	-	3.8	
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	-	4.3	
1 建物外皮の熱負荷抑制				BPI=0.63	3.0	5.0	0.30	-	-	5.0	
2 自然エネルギー利用					3.0	3.0	0.20	-	-	3.0	
3 設備システムの高効率化				BEI=0.29	3.0	5.0	0.30	-	-	5.0	
4 効率的運用					0.2	3.5	0.20	-	-	3.5	
集合住宅以外の評価			②		1.0	3.5	1.00	-	-		
4.1 モニタリング					3.0	4.0	0.50	-	-		
4.2 運用管理体制					3.0	3.0	0.50	-	-		
集合住宅の評価					-	-	-	-	-		
4.1 モニタリング					-	-	-	-	-		
4.2 運用管理体制					-	-	-	-	-		
LR2 資源・マテリアル						-	0.30	-	-	-	3.3
1 水資源保護						0.1	3.4	0.15	-	-	3.4
1.1 節水				②		3.0	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用						0.6	3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無					3.0	3.0	0.67	-	-		
2 雑排水等利用システム導入の有無					3.0	3.0	0.33	-	-		
2 非再生性資源の使用量削減					0.6	3.4	0.63	-	-	3.4	
2.1 材料使用量の削減					-	2.0	0.07	-	-		
2.2 既存建築躯体等の継続使用					-	3.0	0.24	-	-		
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用					-	3.0	0.20	-	-		
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用					3.0	3.0	0.20	-	-		
2.5 持続可能な森林から産出された木材					3.0	3.0	0.05	-	-		
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			独自	躯体材と仕上げ材が容易に分別可能	3.0	5.0	0.24	-	-		
3 汚染物質含有材料の使用回避					0.2	3.0	0.22	-	-	3.0	
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	3.0	0.32	-	-		
3.2 フロン・ハロンの回避					0.6	3.0	0.68	-	-		
1 消火剤			②		-	-	-	-	-		
2 発泡剤(断熱材等)					-	3.0	0.50	-	-		
3 冷媒					3.0	3.0	0.50	-	-		
LR3 敷地外環境						-	-	0.30	-	-	3.7
1 地球温暖化への配慮				①	ライフサイクルCO2排出率49%	-	5.0	0.33	-	-	5.0
2 地域環境への配慮						0.3	3.3	0.33	-	-	3.3
2.1 大気汚染防止				②		-	4.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善						-	3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制						0.2	3.5	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減					独自		-	3.0	0.25	-	-
2 汚水処理負荷抑制						-	3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制			独自		駐輪場、駐車場の設置	-	5.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制						-	3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮						0.3	3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			②			0.4	3.0	0.40	-	-	
1 騒音					独自		-	3.0	1.00	-	-
2 振動				独自		-	-	-	-	-	
3 悪臭						-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制						0.4	3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制						-	3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制						-	1.0	-	-	-	
3 日照阻害の抑制						-	3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制						0.2	3.0	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策						-	3.0	0.70	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策					-	3.0	0.30	-	-		

重点項目スコアシート
小牧田神新事務厚生棟(南棟)

実施設計段階

■ 使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■ 評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				5.0
LR3-1	地球温暖化への配慮	5.0	0.10	3.3
② 資源の有効活用				
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.4	0.19	
③ 敷地内の緑化				3.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.09	外構緑化:19.9%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■ 重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 $\frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{重みの総和}}$

重点項目スコア=

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

環境設計の配慮事項

■ 建物名称 小牧田神新事務厚生棟(南棟)

計画上の配慮事項	
総合	工場との接続や周辺環境を考慮した北側コア配置としながらも、執務室を囲うように南面、西面、東面にテラスや会議室を配置し、ペリメーターバッファゾーンを形成することで日射や熱負荷を抑制している。建物外皮には高断熱化を図り、Low-E複層ガラスの採用により熱負荷を低減し、『ZEB Ready』の実現を達成。
Q1 室内環境	適切な執務室環境整備を主眼に室内計画を行った。執務室内は設計照度を750lx以上、壁面は白色として明るさ感を確保した。部分的に屋外テラスやリフレッシュスペースを設けることで、従業員の生産性の向上を図った。
Q2 サービス性能	機器更新のしやすい設備バルコニーや共用部に面した排水PS・EPSにより、執務室内に入らず設備点検を可能にするなど、維持管理に配慮した計画を行った。
Q3 室外環境(敷地内)	敷地外周部には緑地帯を設け、壁面を後退させることで周辺地域に対して圧迫感の少ない計画とした。外壁は落ち着いたシルバー調とし、各階には屋外テラスをずらしながら設け、リズミカルな外観デザインとした。
LR1 エネルギー	十分な断熱材の厚さを確保し、開口部にはLow-Eガラスを採用することでBPI=0.63と高い外皮性能を確保した。 上記に踏まえ、屋根に太陽光パネルを設置することでBEI=0.29を達成。
LR2 資源・マテリアル	将来の事業転換に対に対応できるよう、内装は分別可能な乾式間仕切りを基本とした。ビニル床シート等の内装仕上げ材にはリサイクル材を使用した。
LR3 敷地外環境	周囲の建物とは適切に離隔を取り、特に1階はピロティを設けることにより、卓越風となる北西-南東の風の通り道を確保した。駐車場や駐輪場を適切に設けることで周囲の渋滞緩和を図った。
その他	